様式第１号（第１０条関係）

２０２３年度業務実績報告書

提出日　2024　年　1　月　16　日

１．職名・氏名　　教授・杉山友城

２．学位　　学位　博士（経営学）、専門分野　地域マネジメント、授与機関　名古屋学院大学、授与年　2012 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
・導入ゼミ（単位数 1）配当年次 1
・教養ゼミ（単位数 1）配当年次 1
・外書購読Ⅰ（単位 2）配当年次 2
・地域マネジメント論（単位 2）配当年次 2
・専攻演習Ⅱ　地域マネジメント特論演習Ⅱ（単位 4）配当年次 M1 後期～M2 前期

②内容・ねらい
・導入ゼミ：地域の経済を学ぼう
　地域経済をテーマに大学での学びに必要な「読む」「書く」「伝える」「議論する」「調べる」のスキル習得を、目指す。

・教養ゼミ：地域創生を考えよう
　地域創生をテーマに、大学での学びの礎となる能力を習得する。具体的には、①地域創生とは何か？を理解する。②越前町梨子ケ平集落を題材にして、グループワークによる地域創生プランを検討し、提案する。③フィールドワークを通じて、現場での気づきを得る。④プレゼンテーション等を通じて、グループで検討した地域創生プランの優位性や固有性などを発見する力、他者に興味を持たせるロジカルシンキング力、ロジカルライティング力、ロジカルプレゼンテーション力を身に着ける。

・外書購読Ⅰ
　経営学科の学生が知っておくべき理論的または実践的な経営理論とそのポイントを、グループワークを通じて理解を深める。Tom Butler Bowdon『50 Business Classics』を使用。

・地域マネジメント論
　安全安心な地域社会のあり方を企画・立案し、まちづくりを実践・運営し、適切に経営管理していく理論と技術を学ぶ。特に、地域創生（まちづくり）や地域産業集積に関する諸理論の視点や事例からのアプローチを試みる。

・専攻演習Ⅱ　地域マネジメント特論演習Ⅱ
　地域マネジメントに関連する先行研究において示されている結論（到達点）を、文献や論文の輪読と討議によって理解・把握し、加えて先行研究において手薄なこと（課題）を、自身で発見する力を養う。「修士論文構想案・研究構想案」を洗練化させ、自身が取り組むべき研究テーマ（リサーチクエスチョン）を固め、計画に基づいた研究推進に取り組む。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
・導入ゼミ：可能な限り平易な表現を意識。学術的な作法（アプローチ）の基礎を、グループワークを通じて習得を促す。学生同士のコミュニケーション向上を意識した。

【ゲストスピーカー　　- 名】
【フィールドワーク等　- 件】

・教養ゼミ：フィールドワーク（越前町梨子ケ平集落の魅力再発見ウォーク、永平寺キャンパス内での越前水仙保全活動等）を実施。文献調査に加えて、三現主義の重要性を、実体験を通じて、認識させる。その成果を、PPT 等で地域創生（商品・サービス構想）プランとしてグループでまとめ、プレゼンテーションを実施。優秀なプランは、プラン実現に向けた検討が地域企業によって検討される。フィールドワークの際には、マスコミにも投げ込みを行い、取材を受けることでの学習効果向上を図った（福井新聞、朝日新聞にて、学生のコメントが取り上げられた）。

【ゲストスピーカー　　1 名】
【フィールドワーク等　2 件】

・外書購読Ⅰ：世界で読まれた 50 の経営理論を紹介する書籍をテキストとして使用することで、経営学科に所属する学生に必要な理論的または実践的な経営理論と基礎英文法の理解を図った。また、グループワークを採用することで、他者への教示、他者からの享受による学習効果の向上を意識した。

【ゲストスピーカー　　1 名】
【フィールドワーク等　2 件】

・地域マネジメント論：世界的な潮流や人口減少問題などから、「福井」を題材にした福井で学び福井だから学べること（福井における事例）を題材に、地域マネジメントのあり方とやり方に関する内容を平易に伝えることを意識した。また、講義終了後、学生には毎回リフレクションを課し、翌週にリフレクションから得られた疑問点などをフィードバックすることで、習熟の質を高めることを実践した。

【ゲストスピーカー　　2 名】
【フィールドワーク等　- 件】

・専攻演習Ⅱ　地域マネジメント特論演習Ⅱ：履修院生の知識習得状況、問題意識、研究テーマやリサーチクエスチョンにアプローチする社会的意義や履修院生のキャリアを活かしたテーマ設定を重点的に行い、「修士論文構想案・研究構想案」を洗練化させることを強く意識した演習を行った。

【ゲストスピーカー　　- 件】
【フィールドワーク等　- 件】

(2)その他の教育活動

内容

・オムニバス登壇、立命館大学大学院、イノベーション戦略論、2023 年 7 月 6 日 10:40～12:10、マクロ経済の動向とロボット産業の展望
・ゲストスピーカー、早稲田大学、国際学生寮 WISH　SI プログラム、2023 年 11 月 2 日 19:30～21:00、地方を元気にするために、私たちは何ができるのか？
・客員教員、福井大学大学院、経営学基礎（15 コマ）

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【　本】
②学術論文（査読あり） 1.「限界集落活性化にみる地域創生の視点と方法―福井県越前町梨子ケ平集落のケースを中心に―」、共著者無、ふくい地域経済研究（36）、2023 年 3 月 　福井県越前町梨子ケ平集落における学生との地域創生活動の 3 年間の総括として、産官学民の連携による地域活性化の有用性と限界について論じた。 【1 本】
③その他論文（査読なし） 【　本】
④学会発表等 【　件】
⑤その他の公表実績 寄稿 1.「多田憲一郎氏の拙著書評へのリプライ」、共著者無、国際文化政策（16）、2023 年 8 月 　拙編著『新しい〈地方〉を創る』（晃洋書房）に対する多田憲一郎氏（鳥取大学教授）からいただいた書評への応答（リプライ）を行った。 【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ・受託研究事業：カーボンニュートラル時代の脱炭素経営に関する研究 ・受託事業：カーボンニュートラルに向けた県内企業の経営の方」 ・補助金等：未来協働プラットフォームふくい推進事業補助金 【学内】
(3)特許等取得
(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）
①-2 委員就任（県）
・福井県「福井駅西口地下駐車場指定管理者選定委員会」、委員長、R2.7～現在に至る
①-3 委員就任（市町村）
・おおい町「複合型交流施設第 2 期改修運営 PFI 事業審査委員会」委員長、R4.12～R6.3
・福井市「新事業創出選定評価委員会」、 委員、R4.6～現在に至る
・福井市「「ふくい企業価値向上人財育成研修会」企画・運営業務に係る福井市プロポーザル審査」、委員、R5.6
・敦賀市「敦賀市指定管理者評価委員会」、委員長、R3.2～現在に至る
・若狭町「上下水道事業経営審議委員会」、委員長、R1.10～現在に至る
・大野市「大野市脱炭素推進会議」、委員長、R5.6～現在に至る
①-4 委員就任（その他公益法人等）
・ふくい産業支援センター「UI ターン移住創業支援事業審査委員会」、委員長、R4.5～現在に至る
・ふくい産業支援センター「中小企業等外国出願支援事業選考委員会」、委員、R5.7
②国・地方公共団体等の調査受託等
・令和 5 年度産業技術コーディネート事業に係る産業技術先進地調査および報告書作成業務委託業務、脱炭素経営先進地（新潟、神奈川、山形、東京）の支援機関や脱炭素経営関連企業への聴き取り調査の実施と調査報告書の作成、R5.7～R5.12
・越前市特定検診結果・レセプトデータ基礎的集計分析、越前市特定検診結果等から越前市民の生活習慣病とその要因を探る、R3.8～現在に至る
③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加
・一般社団法人ふくいエネルギーマネジメント協会、理事、R3.6～現在に至る
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
・ふくいオープンイノベーション推進機構、企画検討会議参加、H31.4 年～現在に至る
・福井市、福井市ナッジ・ユニット、アドバイザー、R4.9～現在に至る
・福井県、福井銀行・福邦銀行、アイコック、ふくい企業価値共創ラボ運営、R5.9～現在に至る
⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講
・北陸地域政策研究フォーラム、運営委員、R4.3～現在に至る
⑦その他

６．大学運営への参画

(1)補職
・学術教養センター協力教員 ・地域経済研究所兼担教員
(2)委員会・チーム活動
・地域連携広報委員会 ・経済学部広報委員（公式 X（旧・Twitter）班）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など